

令和4年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」 「経済同友会賞」6編を顕彰

みんなで描く

みんなの未来

プロジェクト

経済同友会は、専門高校の生徒の研究や学習成果に対して経済界からエールを送り、広く社会の関心を高めることを目的とした令和4年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」(公益財団法人産業教育振興中央会共催)において、全国から集まった研究文44編、作文297編の中から「経済同友会賞」6編を選出した。



専門高校生徒の 研究文・作文コンクール

2017年度より「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」の一環として開始した、産業教育振興中央会との共催事業の「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」を令和4年度も実施した。

本会はこれまで、学校と経営者の交流活動や震災復興プロジェクトなどを通じて、教育や将来の産業を担う若者の支援を行ってきた。作文コンクールは、専門高校の生徒の研究や学習成果に対して経済界からエールを送り、広く社会の関心を高めることを目的に実施し、本年度で6回目を迎えた。

今回は全国から応募のあった研究文44編、作文297編のうち、事前審査を通過した作品の中から、本会会員からなる審査委員会(委員長:経済同友会「学校と経営者の交流活動推進委員会」林礼子委員長)にて、①妥当性、②論理性、③独創性、④説得力、⑤将来性の五つの視点から審査を行い、研究文の部および作文の部から、それぞれ3作品を経済同友会賞の授賞対象として選出した。

審査委員会

※敬称略。役職は開催当時

■審査委員長

林 礼子

学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長
(BofA証券 取締役 副社長)

■審査委員

石渡 明美

学校と経営者の交流活動推進委員会 副委員長
(花王 特命フェロー)

渡部 一文

学校と経営者の交流活動推進委員会 副委員長
(アマゾンジャパン バイスプレジデント)

■ 審査委員長選考後評

林 礼子 学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長

今回で6回目を迎えた「経済同友会賞」は、さまざまなテーマについて創造性に富んだユニークな視点を切り口に、自己や周囲の環境へ真摯に向き合い、課題の解決に奮闘する様子がうかがえる素晴らしい作品ばかりでした。高校生らしいみずみずしく豊かな感性と真っ直ぐな言葉でそれぞれの成果や熱い思いが記されており、候補作品を読み進める時間は大変有意義でありました。

経済同友会は、企業経営者が個人の立場で参加し、若い皆さんが希望の持てる日本国であるように、政策提言やその実現のための行動を続けている経済団体です。この経済同友会賞は、未来を担う高校生の志に共感し、エールを送りたいという考えから作られたものです。

今回、経済同友会「学校と経営者の交流活動推進委員会」の委員長である私のほか、2人の副委員長が審査委員となり、発想のオリジナリティー、論旨の首尾一貫性や結論の納得性、成長が期待できるワクワク感などの観点から、作文3点と研究文3編を選ばせていただきました。

受賞作品は、いずれも身の回りの出来事や実体験から、直面する課題や困難に対して創意工夫を凝らし、試行錯誤を繰り返しながら解決への糸口を見いだす様子や今後の展望と抱負が明快に記されており、とても感銘を受けました。

これまでの常識が覆るなど予測困難な時代においては、社会のニーズや課題を正確に把握し、それに応え、貢献しようとする皆さんのような前向きな姿勢が求められます。これからも自身の将来に対して良いイメージを描きながら、周囲の課題に目を向け、自分の信じる道を歩めるようさまざまなことへ積極的にチャレンジしてください。皆さんの可能性を大いに期待しています。

「経済同友会賞」受賞作品



研究文の部

わたしたちの「そさえてい5.0」

熊本県立水俣高等学校【機械科3年】

鬼塚 虹渡さん 佐竹 豊竜さん
飯塚 悠斗さん 告 奎佑さん
山岡 新さん 米村 翔和さん

Society5.0に着目し、SDGsの達成に向けて地元の鳥獣被害対策を検証。研究を通じて、課題解決の達成感や命の大切さに加え、さまざまな人々を巻き込んだ持続的なコミュニティ形成の重要性を学んだ。



在宅就労に向けた考察

愛知県立港特別支援学校
【高等部商業科3年】

近藤 将一郎さん

卒業後の在宅就労に向けた作業環境を整えるべく、現状の問題点を整理し一つずつ対策を検討。創意工夫を凝らしながら働くことのイメージを具体化し、研究成果を幅広く周知するなど今後の展望を見いだした。



入力姿勢の改善 ～検定合格を目指して～

愛知県立港特別支援学校
【高等部商業科2年】

木村 優那さん

ビジネス文書実務検定の合格に向け、徹底した自己分析を行い、時間当たりの入力文字数向上策を考察。試行錯誤を繰り返しながら、自身に合った理想とする入力姿勢を見だし、大幅な入力文字数の増加に成功した。



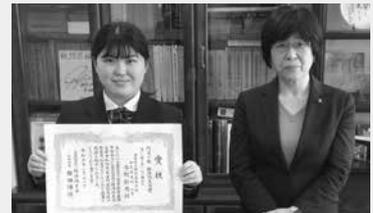
作文の部

思いに寄り添い心に触れる

愛知県立桃陵高等学校
【衛生看護科3年】

今村 紗也佳さん

「患者様の思いに寄り添い心に触れる」そんな看護とは何か。実習を通じて一人の患者さんと正面から向き合い、唯一無二の信頼関係を築くことの重要性を体感し、理想とする看護師としての姿勢を発見した。

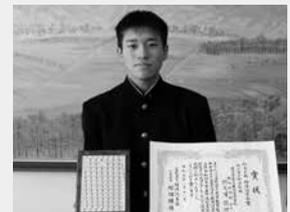


我が家の経営戦略

群馬県立勢多農林高等学校
【動物科学科3年】

阿久澤 諒河さん

さまざまな技術を導入し品質の向上に成功した養豚会社のさらなる規模拡大を画策。販売や流通方法の工夫に着目し、幅広い多様な観点から独自性のあるアイデアとその実現可能性について考察した。卒業後はより高度な専門性を身に付け、家族と力を合わせた経営を目指す。



消費者との距離が近い肥育農家 ～レストランを架け橋に～

大阪府立農芸高等学校
【資源動物科3年】

豊岡 然さん

肥育農家である祖父の思いやこだわりを消費者に届けるべく、レストランなどのヒアリングを通じて差別化できる牛の飼育方法を考察。牛の幸せを考えた飼育方法に着目し、祖父の理想と自身のアイデアの実現を目標に肥育農家の道へ進むことを誓う。

